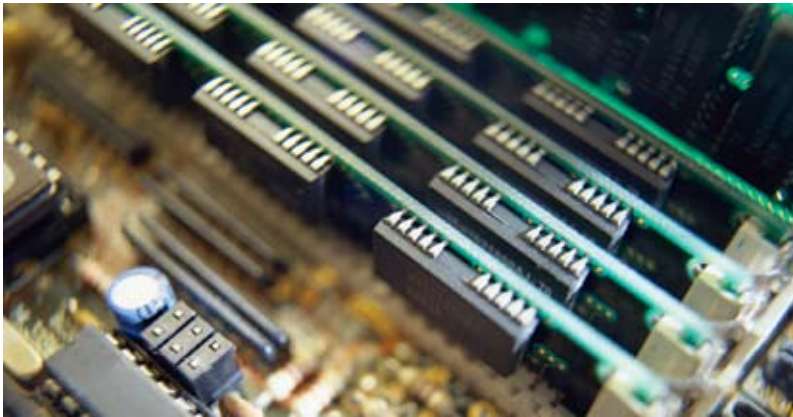


KEMET 社、社内デスクトップに Reflection 2008 を導入して最新化を図る



電子化の世界では、KEMET Corporation が開発するコンポーネントは「パッシブ」製品ですが、同社は決してパッシブ（受け身の姿勢）な企業ではありません。長年にわたり企業の合併、買収、統合を繰り返してきた KEMET は、世界で最も充実した表面実装型スルーホールコンデンサ製品のラインナップを誇る、今年創立 90 周年を迎える企業です。事実、KEMET のコンデンサは、現在使用されているほとんどすべての電子アプリケーションや電子製品に装備されています。

KEMET は、企業買収によってグローバルな企業へと成長しましたが、それに伴って、デスクトップオペレーティングシステムと旧式の端末エミュレータソフトウェアが会社全体で混在するという状況に陥っていました。そして、このような互換性のないシステムの存在によって、企業内 IBM ホストに保存されている重要な顧客注文情報へのユーザアクセスが妨げられるという問題が頻発するようになりました。

KEMET は、Windows Vista と Reflection® 2008 ソフトウェアを社内の標準ソフトウェアとして採用することで、この問題を解決しました。

Vista と Reflection: 自然な調和

社内システムを統一することは、生産規模の拡大によってコストの削減を図るには、最も効果的な方法でした。KEMET では、IBM AS/400 ホストに、重要ではあるものの混沌とした、受注、予測、出荷、請求、トラッキングのアプリケーションが常駐していました。デスクトップオペレーティングシステムの最新化に加えて、これらのアプリケーションに新たな機能を加え、さらにそれらを補完できる端末エミュレータも必要でした。

論理オペレーティングシステムとして採用したのは、Windows Vista です。Vista の導入により、Microsoft SCCM などの集中管理ツールを使用して、広く普及している PC をグローバルに管理できるようになりました。また、Vista には KEMET の多数のモバイルユーザが必要とするセキュリティと操作性も備えていました。

必然的に、Vista でシームレスに動作する新しい端末エミュレータが必要になりました。その要件を満たしたのが、Attachmate の次世代端末エミュレータ、Reflection 2008 でした。KEMET 社 Worldwide Infrastructure 部門のディレクターであるブライアン・バーチ氏は次のように述べています。「Reflection ほど Vista と緊密に統合された端末エミュレータはほかにはありません。Reflection 2008 は Vista 認定製品で、Vista のセキュリティ、管理、生産性向上の機能をフルに利用できるよう設計されています」。

まとめ

課題

グローバル企業全体に散在する多種多様の旧式エミュレータによって、重要な顧客注文情報へのユーザアクセスが妨げられていました。

ソリューション

Reflection 2008 の導入による社内デスクトップの標準化と最新化

成果

- Windows Vista との緊密な統合による管理、生産性、セキュリティのすべての面での利用価値の向上
- 複数の仮想化技術を組み合わせる計画を推進するための柔軟性を獲得
- 最新の暗号化方式と認証方式により、最重要情報の安全性を確保
- セッションのカスタマイズとビジネスプロセスの自動化によるユーザの作業効率の向上

例えば、Reflection 2008 と Vista のユーザアカウント制御を統合することで、IT 担当者は、Reflection 2008 のどのタスクの実行をユーザに許可するかを制御できるようになります。Reflection 2008 では、Vista Aero グラフィカル ユーザインタフェースも使用でき、セッション設定は Vista のコントロールパネルに合わせて編成されています。

最新のデスクトップ向け最新式端末エミュレータ

KEMET では、このように端末エミュレータを組み合わせることで、選択肢の幅が広がりました。KEMET の Reflection に対する信頼は次第に高まってきました。

バーチ氏は次のように述べています。「私たちはそれまでの経験から、Reflection が安定性と信頼性に優れていることを認識していました。さらに、最新バージョンでは、当社の長期計画に対応できるような柔軟性が備わっていることもわかっていました」。バーチ氏によれば、最新の仮想化技術への対応、さまざまなレベルのセキュリティ設定、使いやすいカスタマイズオプションなどが、Reflection 2008 を導入する決定的な要因となったということです。

• 最新の仮想化技術

KEMET は最近、アプリケーションとデスクトップの仮想化戦略を打ち出しましたが、そこで大きな役割を担うのが Reflection です。バーチ氏は次のように述べています。「いずれは、完全に仮想化されたデスクトップを組み合わせるようになるでしょう」。

クライアントは、シンクライアントすなわち機能を制限した PC になります。また、ローカルアプリケーションを実行できるマシンの数も増えていくとでしょう。Reflection は、VMWare、Citrix、Microsoft などの最新の仮想化プラットフォームでテスト済みであるため、我々の進む道を阻むことはありません。

配布の自動化、簡単なアップグレード、アプリケーションの互換性は、Reflection 2008 の仮想化による最適化が IT 部門にもたらすその他の効果として、KEMET が期待を寄せる利点の一部です。例えば、1 台のマシンで 2 つのバージョンの Reflection を同時に実行できます。このため、ユーザは業務を中断せずに新しいバージョンへと徐々に移行することができます。

● 複数レベルのセキュリティ設定

Reflection のセキュリティ機能は、KEMET のグローバル業務に欠かせないものです。社員の居場所に関係なくデータやアプリケーションを社員に提供するには、さまざまなレベルのセキュリティ設定が必要です。クライアント側の SSL/TLS、SSH、Kerberos をはじめとする最新の暗号化プロトコルと認証方式を採用することにより、Reflection 2008 は、Telnet では実現できない方法で、未加工のデータストリームを保護できます。このような機能により、KEMET では SOX 法 などの米国の連邦規制への準拠をはじめとする重要な ビジネス要件にも対応できるようになります。

● 使いやすいカスタマイズオプション

Reflection のカスタマイズオプションが KEMET の開発者にとって有益であることは間違いありません。バーチ氏によれば、「開発コミュニティでは、セッションの構成、タスクの自動化、VBA による顧客データと Web アプリケーションまたは Windows アプリケーションとの統合ができるという点が、特に高く評価されています。これは、開発者にとって使い慣れた環境でもあるわけです」ということです。

Reflection が提供する VBA インタフェースにより、KEMET では会社全体のビジネスプロセスを自動化できるようになりました。KEMET では、世界中の各工場に Windows ベースの生産実行システムをインストールしました。このシステムは、フロントエンドではバーコード対応のグラフィカルで直観的なアプリケーションを、各国語で提供します。また、バックエンドでは、システムに入力された情報が翻訳され、会社の MRP メインフレームアプリケーションに入力されます。このようなプロセスは、Reflection 2008 の VBA インタフェースで API を使用することにより可能になります。

「私たちはそれまでの経験から、Reflection が安定性と信頼性の高い製品であることを認識していました。さらに、最新バージョンでは、当社の長期計画に対応できるような柔軟性が備わっていることもわかっていました」。

- KEMET Corporation
Worldwide Infrastructure
部門ディレクター
ブライアン・バーチ氏

Reflection の VBA インタフェースのおかげで、英語ベースで使い勝手が悪く、API も備えていないようなかなり時代遅れのメインフレームアプリケーションに対処することができました。英語を母国語としないユーザは母国語で作業することができます。翻訳プロセスはユーザには見えないようになっています」。

バーチ氏は次のように述べています。「Reflection の VBA インタフェースのおかげで、英語ベースで使い勝手が悪く、API も備えていないようなかなり時代遅れのメインフレームアプリケーションに対処することができました。英語を母国語としないユーザは母国語で作業することができます。翻訳プロセスはユーザには見えないようになっています」。

このような最新の機能を備えていることで、KEMET のユーザはどこにいても、デバイスの種類に関係なく、あらゆる方法で重要なデータにアクセスできます。

Reflection は「問題なく機能」します。

以前のエミュレータでは、エミュレータが正しく機能しないというユーザからの訴えが、しばしば IT 部門に届いていました。このような信頼性の欠如は、米国のサポートチームが就寝中の時間帯にサポートを必要とする国外のユーザにとっては、特に困った問題でした。

このような問題は、Reflection 2008 の導入によってすべて解決されました。その 1 つは、Reflection 2008 が Attachmate のベテランの顧客サポートチームの支援を受けられるようになったことです。バーチ氏は次のように述べています。「サポートが必要になったら、Attachmate の担当者に連絡すれば、技術的な問題であっても、ライセンスに関する案件であっても、サポートを受けられます」。

うれしいことに、技術的な問題はほとんど発生していません。「Reflection の配布後、ユーザから連絡が入ることはほとんどありません。すべてはユーザ側にあり、問題なく機能するからです」。

Reflection 2008: 場所を選ばないメインフレームの 利用

Attachmate の次世代端末エミュレータ Reflection 2008 は、Windows 7 を含む複数のオペレーティングシステム、最新の仮想化技術、マルチレベルのセキュリティに対応しています。さらには、Microsoft .NET をベースに開発され、VBA と統合されたことで、カスタマイズが自由にできるようになりました。これにより、デバイスの種類に関係なく、どこからでも、あらゆる方法でメインフレームにアクセスできるようになりました。

Attachmate について

Attachmate は、端末エミュレータ、アプリケーション統合、安全な通信のための高度なソフトウェアを提供しています。当社の NetIQ 事業では、IT プロセスを自動化し、分散 IT のパフォーマンス、セキュリティ、コンプライアンスを管理するためのソリューションを提供しています。当社の技術を利用して、世界中の 65,000 社以上のお客様が、新しく有意義な手法で IT 資産を活用しています。

www.attachmate.jp



日本本社
NetIQ 株式会社 Attachmate 事業部
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町1-1
住友市ヶ谷ビル 9階
TEL 03-3513-5111 FAX 03-3513-5112
E-mail jinfo@attachmate.com
URL www.attachmate.jp

米国本社
1500 Dexter Avenue North
Seattle, WA 98109 USA
TEL +1 206-217-7500
FAX +1 206-217-7515
URL www.attachmate.com

*NetIQ 株式会社は米国 Attachmate Corporation の 100% 子会社です。

【販売代理店】

CYBERNET

サイバネットシステム株式会社

本社 〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル
Tel: (03)5297-3487 Fax: (03)5297-3646
中部支社 Tel: (052)219-5900 Fax: (052)219-5970
西日本支社 Tel: (06)6940-3650 Fax: (06)6940-3601

■ <http://www.cybernet.co.jp/reflection/> ■ rinfo@cybernet.co.jp